低学年分科会提案

１　研究主題の捉え方

〈研究主題〉

「主体的・対話的に学ぶ児童の育成
～身近な地域素材を活用した教材開発を通して～」

本単元は、第３学年総合的な学習の時間「墨田・京島大好き散歩コースをつくろう！！」として、地域の魅力を発見し、それを墨田区観光協会に提案する学習活動である。

児童は、昨年度、生活科で町探検に出掛け「すてき（魅力)」について友達と交流し、さらに「もっと知りたいふしぎ(疑問)」を見付け、解決するために再度町探検に出掛けるという学習経験を積み重ねてきた。計６回の町探検を行い、たくさんの魅力を知り、自分たちの住んでいる地域に誇りや愛着をもっている。本実践では、今年「地球の歩き方　墨田区」が 23 区域で３番目に発行されたことに触れ、児童は、墨田区の魅力に注目が集まっていることに気付く。昨年度の積み重ねから「京島地区にもたくさんの魅力があることをみんなに知ってほしい」という思いが高まり、自分たちで墨田・京島大好き散歩コースを作り、発信する活動へと発展させる。児童は地域の公園や店、本の発行に携わった墨田区観光協会や、観光ガイドの方々へのインタビューや調査を通して、観光スポット・伝統行事・働く人々の思いや、訪れる人の興味など、多角的な視点で情報の収集・整理・分析を行う。その上で、京島地区の魅力を届ける散歩コースを作成し、観光協会へ提案・発信する活動を展開する。

研究主題における主体的に学ぶ姿とは、自ら解決したい課題をもち、見通しをもって探究活動をすることを通して、必要な知識・技能を習得・活用しながら学習を進める姿であると捉える。本実践では、単にコースを作成すること自体を目的とするのではなく、「散歩コースを利用する人に京島の魅力を届けたい」という願いのもと、自らすすんでインタビューや取材を行い、必要な情報を整理・選択しながら課題解決に向けて粘り強く取り組む姿を指す。

対話的に学ぶ姿とは、友達や地域の人々、観光協会や観光ガイドなど、多様な他者との協働的な関わりを通して、自らの考えを広げたり深めたりする姿であると捉える。本実践では、グループで一つの散歩コースを完成させる過程で、互いの意見や収集した情報を共有・整理・分析し「どの情報や伝え方が最も効果的か」について相手意識をもって、話合いを重ねる。さらに、グループ以外の友達や観光協会、観光ガイドとの対話を通して視点を広げることを通して、一層考えを広げたり深めたりすると考える。

このように、身近な地域素材を活用し、自ら課題解決をしたいという思いをもつことで、主体的に課題に向き合い、対話を通して学びを深めていく児童が育成できると考えた。

２　児童の実態について

以下の通り、アンケート調査を行った。

（１）調査方法：質問紙によるアンケート調査

（２）調査対象：３年１組　22 名

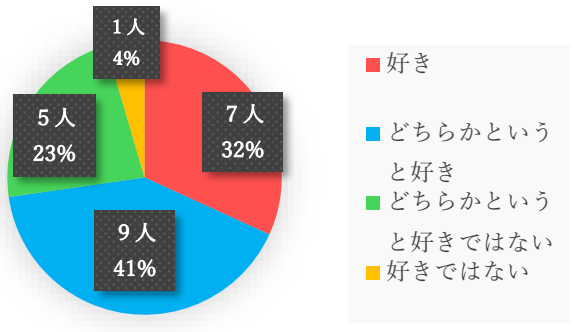
（３）調査時期：令和８年７月 17 日（金）

（４）調査結果及び考察（単位：人）

【学習に関するアンケート調査】

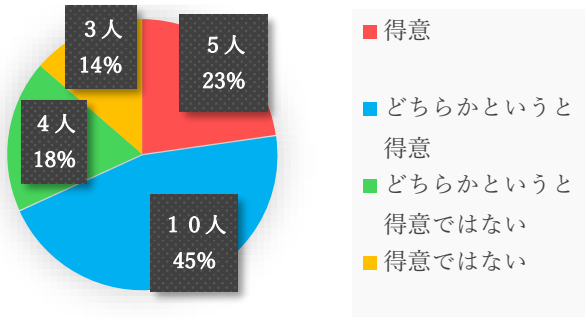
Ｑ１

調べることは好きですか。



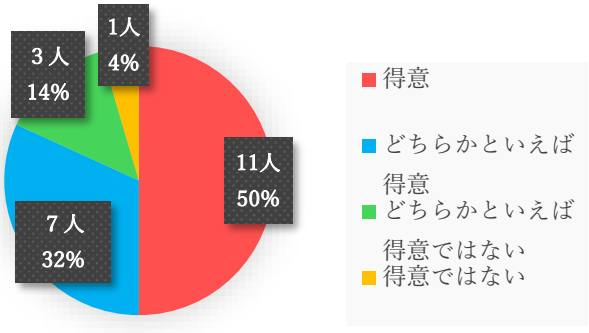
Ｑ２

学んだことから次の学習のめあてを考えるのは得意ですか。



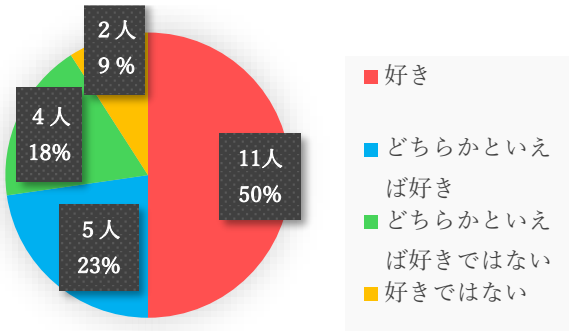
Ｑ３

友達と新しいことを考えたり、作ったりすることは得意ですか。



Ｑ４

初めてのことに挑戦するのは好きですか。



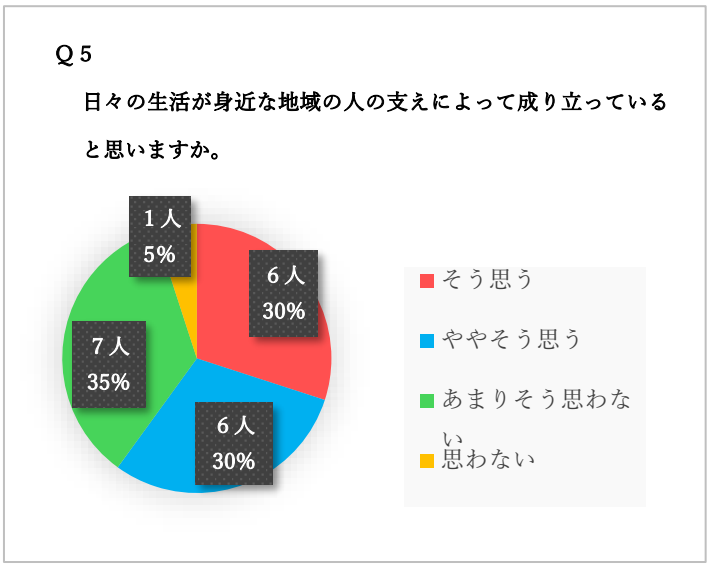
学習については、７割の児童が「Ｑ１調べることは好きですか。」の問いに「好き」又は「どちらかというと好き」と回答した。「好き」と回答した理由の記述からは、新しいことを知ることが楽しい、興味のあることを知ることができるという意見が見られた。このことから、調べることを好意的に捉えている児童が多くいる一方で、調べる経験が少ないことから苦手意識をもつ児童や、調べる方法が分からず知識を深めることには至っていない児童もいると考えられる。

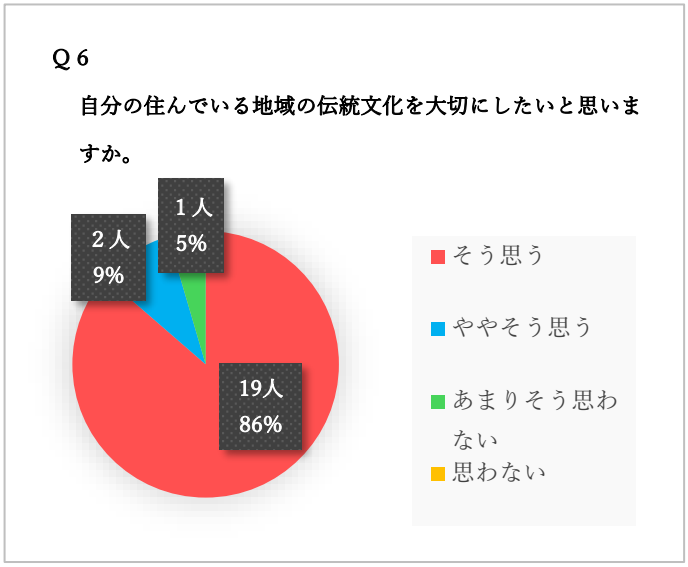
主体的な学習については「Ｑ２学んだことから次の学習のめあてを考えるのは得意ですか。」の問いに、約７割が「得意」、「どちらかというと得意」と回答している一方で、約３割が「どちらかというと得意ではない」、「得意ではない」と回答している。ここから、本校の目指す「主体的に学ぶ姿」におい

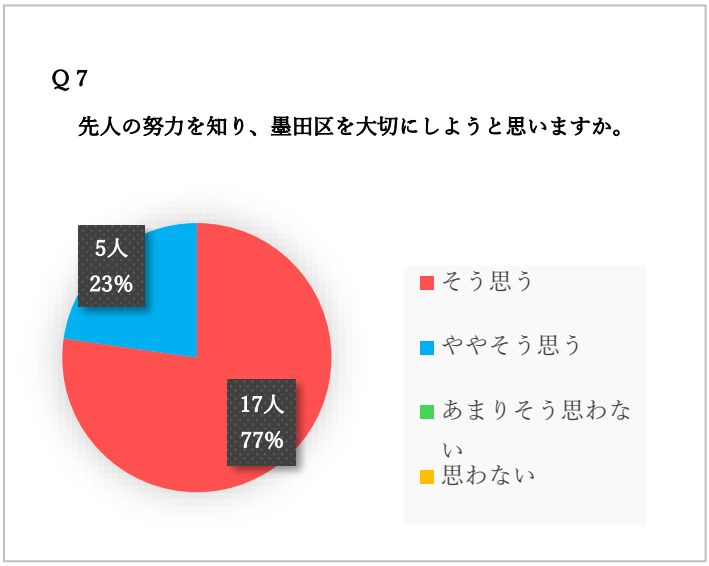
て、学習を振り返り、次時の見通しをもつ過程に課題があることが明らかになった。また、「Ｑ４初めてのことに挑戦するのは好きですか。」の問いに、約７割が「好き」、「どちらかといえば好き」と回答しており、約３割が「どちらかといえば好きではない」、「好きではない」と回答している。学級のほとんどの児童が、新しいことへの挑戦に前向きであることが読み取れた。

対話的な学習については、「Ｑ３友達と新しいことを考えたり、作ったりすることは得意ですか。」の問いに、約８割が「得意」、「どちらかといえば得意」と回答しており、残り約２割が「どちらかといえば得意ではない」、「得意ではない」と回答していた。学級のほとんどの児童が、友達との協働的な学習や対話的な学習に前向きであることが読み取れた。

【地域に関するアンケート調査】







地域については、９割以上の児童の児童が「Ｑ６自分の住んでいる地域の伝統文化を大切にしたいと思いますか。」の問いに「そう思う」又は「ややそう思う」と回答している。さらに、「Ｑ７先人の努力を知り、墨田区を大切にしようと思いますか。」の問いでは、全員が「そう思う」、「ややそう思う」と回答しており、地域への愛着は強いことが読み取れる。しかし「Ｑ５日々の生活が身近な地域の人の支えによって成り立っていると思いますか。」の問いに、「そう思う」、「ややそう思う」と回答した

児童は約５割にとどまっていた。「あまりそう思わない」、「思わない」と回答した児童の理由の記述からは、普段、生活を支える人の働きに意識が向いていないことが読み取れた。

３　研究主題に迫るための手だて

（１）主体的に課題解決に向かうための学習計画や足跡の視覚化

① 学習計画と調査活動の足跡の視覚化

児童が「学習の振り返り」、「現在の進捗の把握」をいつでも自分で確認できるようにするとともに、「今後の活動の見通し」をもてるようにする。

また、昨年度町探検で地域マップを作成した経験を生かし、今回も１回目の町探検から京島マップを作成し、調べたことの足跡を残していく。児童はマップに記録された友達の気付きを基に、児童は、自分だけでは気付かない視点に気付き、自分の調べ学習に生かす機会になると考えた。さらに、友達が集めた情報の中から、自分の課題（散歩コース）に取り入れたい魅力も発見し、主体的に学習を広げていくことができると考えた。

② 散歩コースのモデルの掲示

児童が散歩コースを作る前に、モデルを掲示することで、ゴールを見通しながら魅力を探したり、様々なまとめ方に触れたりできるようにする。また、自分たちに必要な調査活動や自分たちならではの、よりよいまとめ方のイメージを広げられるようにする。

③ 振り返りシートによる自己の学習の足跡の視覚化

観光協会で聞いたコース作りのポイントやコースを利用する人、町探検で見付けた魅力などをワークシートに記録し、積み重ねていくことで、課題解決の際にいつでも確認できたり、新たな課題を記録したりできるようにする。

（２） 対話的に課題解決に向かうための相手意識の明確化

① 自己の考えを深める場の設定

思考ツールを活用し、友達と共有する前に自分の考えをじっくり整理・分析する時間を確保する。その際、付箋を活用して操作しやすくし、何度も試行錯誤しながら、内容を具体化し、考えを深められるようにする。

② 散歩コース作成のポイントの視覚化

第２時で観光協会の方から聞いたポイント（①散歩コース作成のポイント　②散歩コースへの思い　③散歩コースを利用する相手）を掲示し、相手と目的を明確にすることで、利用する人の視点を基に話合いができるようにする。散歩コースを歩く相手を想像しながら友達と対話を重ね、よりよい提案へと学びを発展させていくと考える。

４　実践授業

第３学年　総合的な学習の時間　学習指導案

日　時　　令和８年 10 月 30 日（金）
対　象　　第 3 学 年 1 組　 23 名

単元名　墨田・京島 大好き散歩コースをつくろう！！

単元の目標

墨田・京島地区の魅力を探る活動を通して、調査やインタビュー活動などの情報収集の方法を学び、適切に活用するとともに、墨田・京島地区の魅力を理解し、魅力を発信するために自分たちにできることを考え、実践しようとしている。また、自分たちが住む墨田・京島地区に親しみをもって生活できるようにする。

単元の評価規準

評価の観点	評価規準
ア 知識・技能	①　墨田・京島地区の場所や人、行事などの、散歩コースの作成に必要な知識を身に付け、地域の特性や魅力について理解している。 ②　調査やインタビュー活動を通して、情報収集の方法を学び、適切に活用している。 ③　多様な人々と関わりながら解決していく学習の良さに気付いている。
イ 思考・判断・表現	①　墨田・京島地区の魅力を発信するために、学習課題を設定し、解決の方法や手順を考え、計画を立てている。（課題設定・計画） ②　墨田・京島地区の魅力を発信するために、課題に適した方法を選びながら、関わっている地域の情報を収集している。（情報収集） ③　収集した情報を相手にとって効果的であるか整理し、分析している。（比較検討・整理分析） ④　発表や交流活動を通して、友達や観光協会の人と意見交換し、フィードバックを柔軟に取り入れて表現している。（表現・まとめ）
ウ 主体的に学習に取り組む態度	①　自分のよさや頑張りを認めたり、他者の考えを受け入れたりしながら、地域の魅力を探究する活動に積極的に取り組もうとしている。 ②　感じたことや考えたことをまとめる活動を通して、地域社会への親しみをもとうとしている。 ③　地域に関心をもち続けようとしている。

単元の指導計画と評価計画（30 時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 （評価方法）
第1次 墨田・京島の魅力を知らせよう（5）	○昨年度の「町たんけん」を振り返る。 ・昨年度、キラキラ橘商店街でインタビューをした。 ・町の「すてき」を１年生に伝えた。	・墨田区や京島の良さ、魅力について考えることができるように、自分の生活や今までの学習を振り返る。	ア―① （発言・振り返り）
	○『地球の歩き方 墨田区版』を紹介する。 ・墨田区にはまだまだ知らない場所や人、行事がある。 ・ぼくたちの知っているおすすめの場所も知らせたい。	・墨田区観光協会にアドバイスをもらう意欲を高めるために墨田区観光協会が「地球の歩き方」の発行に協力していることを提示する。	ア―② （発言・振り返り）
	○墨田区観光協会に聞きたいことを考える。	・次の３点を必ず押さえる。 ①散歩コースを作るときのポイント。 ②どのような思いから散歩コースを作成しているか。 ③どのような方が散歩コースを利用しているのか。	ア―② （ワークシート） ア―③ （観察・振り返り） イ―② （ワークシート）
	○墨田区観光協会に聞きに行く。 ・墨田区観光協会の取組を聞き、思いや願いを知る。 ・調べ学習のまとめ方やポイントの助言をもらう。	・墨田区観光協会の散歩コースを一部の人しか利用していないことに気付かせ、町の魅力を様々な人に伝えたいという思いをもたせる。	
	○学習のゴールと、散歩コースを作る目的や伝える相手を話し合う。	・町の魅力を、誰に伝えたいかを考えさせ、相手意識を明確にもたせる。	イ―① （発言・振り返り） ウ―① （観察・振り返り）
	○学習計画を立てる。 ① 町たんけんをもう一度やってみよう ② インタビューしよう ③ 散歩コースの構成を考えよう（本時） ④ 墨田区観光協会の方にアドバイスをもらおう ⑤ 散歩コースを作ろう ⑥ 発表の練習をしよう ⑦ 発表会をしよう ⑧ 振り返り	・散歩コースの例を数種類例示し、学習の見通しをもたせて意欲を高めていく。	
	【単元全体のめあて】墨田・京島大好き散歩コースを作り、その魅力を伝えよう！		

第2次 墨田・京島へ調査しに行こう (10)	○町探検に行く。 ・第１回…四吾小から見て北部エリア（キラキラ橘商店街、京島南公園など） ・第２回…四吾小から見て南部エリア（iU、小村井香取神社など） ○町探検で見付けたお気に入りの場所や人、行事を紹介したい相手意識を基に、３～４つに決める。 ○紹介したい相手意識を基に、より詳しく調べたい場所や人、行事を決める。（１人１～２つ） ○インタビュー内容を考え、練習する。 ○インタビュー、調査に行く。 ・第１回…四吾小から見て北部エリア（キラキラ商店街、京島南公園など） ・第２回…四吾小から見て南部エリア（iU、小村井香取神社など） ○分かったことを記録する。	・コースを利用する人を意識できるような言葉掛けをする。 ・児童が見付けた魅力を模造紙にまとめ、いつでも振り返ることができるようにする。 ・地域の人々の思いや願い、工夫に着目できるように、視点を示す。 ・インタビューや調査で行けない場所はインターネットや本を利用したり、保護者に協力を依頼したり、資料を用意したりすることでどの児童も調べ学習を進められるようにする。	ア―② （観察・振り返り） イ―① （観察・振り返り） ウ―① （観察・振り返り） ア―② （ワークシート） ア―③ （観察・振り返り） ア―① （ワークシート）
第3次 墨田・京島大好き散歩コースを作ろう (6)	○インタビュー、調査結果をまとめる。 ○まとめたものから、その場所や人、行事の魅力を考える。 ・考えた魅力をワークシートにまとめて、情報を整理する。 ○散歩コース作りのグループを確認する。 ○相手意識に基づいた場所や人、行事の魅力をグループで伝え合い、散歩コースを考える。（本時）	・ピラミッドチャートを使用することで、情報の優先順位を考えやすくし、整理しやすくする。 ・調べたことを付箋に書くことで、調べた情報を操作しやすくする。 ・誰に向けてコースを作るかを基にグループ分けをする。 ・多くのグループの散歩コースを見ることができるように、アドバイスの視点を絞り、次の２点を交流できるようにする。 ①散歩コース名が工夫されているか。 ②魅力が十分に伝わるか。	ア―① （ワークシート） イ―③ （ワークシート） イ―③ （観察）

	・前時に考えた魅力をグループごとに伝え合い、ワークシートにまとめ、散歩コース名を考える。		
	○自分たちで考えた散歩コースを練り直す。 ・前時を振り返り、アドバイスシートを基に、散歩コースや紹介する魅力を再考する。	・相手意識を再度確かめ、自分たちの考えた散歩コースの場所や人、行事の魅力が十分に伝わるか、相手を想像しながら理由を添えて考えられるようにする。	イ―③ （観察）
	○墨田区観光協会の方や観光ガイドの方にアドバイスを聞く。 ・前時に考えた散歩コースの構成とその魅力を墨田区観光協会の方に説明し、アドバイスを受ける。	・墨田区観光協会の方からのアドバイスを可視化し、次時の学習で活用できるようにする。	ア―③ （観察・振り返り） イ―④ （観察・振り返り）
	○墨田区観光協会の方からのアドバイスを受けて、散歩コースの構成を練り直す。 ・前時を振り返り、墨田区観光協会の方からのアドバイスを基に、散歩コース名や紹介する魅力を再考する。	・散歩コースを利用する相手意識を再度確かめ、その相手に魅力がより伝わるように構成を再考させる。	イ―④ （観察・振り返り）

第4次 墨田・京島大好き散歩コースをプレゼンしよう！ (9)	○前時までに考えた散歩コースをまとめる。	・様々なパンフレットに触れることで、対象とする相手によりまとめ方が異なることに気付かせる。 ・教員が作成した散歩コースを再度提示することで、見通しをもつことができるようにする。	イ―③ （観察・振り返り）
	○散歩コースを利用する人に見てもらうための方法を考える。 ・作成した散歩コースをどのように活用すれば、利用する相手に伝わるか話し合う。		
	○発表台本を作成し、発表の練習をする。 ・グループごとに発表内容を検討し、発表原稿や資料を作成して発表練習を行う。	・発表練習をグループ間で見合い、改善点やよかった点を伝え合うことで発表をよりよくさせるようにする。 ・考えた魅力が伝わる発表になっているか振り返らせる。	イ―④ （観察・振り返り）
	○墨田区観光協会の人に向けて発表する。 ・他のグループの発表を聞く。 ・墨田区観光協会の人から感想をもらう。 ・作成した散歩コースを置いてもらえるよう、お願いする。	・墨田区観光協会の方からの感想や助言を教室内に掲示して可視化し、次時での単元の振り返りに活用できるようにする。	イ―④ （発表・振り返り） ウ―② （発表・振り返り）
	○学習のまとめ、振り返り ・自分たちが暮らす墨田・京島はどのような町か、もう一度考える。 ・これからどのようなことができるか、どのような町にしたいか考える。	・自分自身の取組の良さに気付き、学ぶ楽しさを実感できるようにするために、地域の方々の思いや温かさ、そして自分自身の成長に気付いている児童を称賛する。	ア―① （振り返り） ア―③ （観察・振り返り） ウ―③ （発言・振り返り）

本時の学習（全 30 時間中の第 18 時）

（１）目標

調べた情報を基に、自分で選んだ相手にとって効果的な情報であるか整理し、相手にとってより効果的なコースになっているか分析している。

（思考・判断・表現）

（２）本時の展開

時間	学習活動	◇指導上の留意点・配慮事項 ●評価（評価方法）
導入 ４分	１　前時の振り返りを行う。 ・相手意識を踏まえながら場所や人、行事の魅力を考えた。 ・ピラミッドチャートを活用し、伝えたい魅力を選んだ。 ２　本時のめあてと流れを確認する。 みんなに魅力が伝わる墨田・京島大好き散歩コースを考えよう。	◇学習の足跡を可視化して、相手意識・目的意識を明確にする。 ◇１グループ３～４人（７グループ） ◇話し合う内容、学習手順を提示して視覚化することで、活動の見通しをもたせる。
展開 10 分	３　グループごとに、墨田・京島大好き散歩コースを考える。 ・前時のピラミッドチャートを基にお気に入りの場所や人、行事と、その魅力について伝え合う。 ・相手意識を踏まえながら、散歩コースに載せる魅力をグループで精選する。 ・伝えたお気に入りの場所や人、行事を組み合わせて散歩コースを作り、名前を考える。	◇散歩コースの例を掲示し、いつでも確認できるようにする。 ◇付箋を用いて魅力を整理することで、考えた魅力を入れ替えたり加えたりしやすくする。 ◇グループ全員のお気に入りの場所や人、行事が入るように児童に伝える。
10 分	４　他のグループの作った散歩コースを見合い、アドバイスし合う。 ・相手意識を踏まえながら、次の２点について、良さや改善案をグループで話し合い、アドバイスシートに記入する。	◇散歩コースを歩く相手意識を再度確認し、明確にすることで、アドバイスの視点を示す。

	① 散歩コース名が工夫されているか。 ② 相手に十分伝わる魅力になっているか。	
10分	5 アドバイスシートを受けて、グループごとに考えた散歩コースを練り直す。 ・散歩コース名をより工夫できるか話し合う。 ・相手をさらにひきつける魅力はないか話し合う。	◇改善した考えは足跡が残るように消しゴムでは消さず、赤鉛筆で追記、修正する。 ◇教員は机間指導を行い、アドバイスを柔軟に受け入れている児童の様子を価値付ける。
4分	6 アドバイスシートを受けて、改善したことを学級全体で共有する。	◇ワークシートを電子黒板に投影し、改善した箇所を学級全体に提示する。
まとめ 7分	7 本時の振り返りを行い、次時への見通しをもつ。 ・ワークシートに記入し、グループごとに伝え合う。 ・学級全体で発表する。	◇めあてに立ち返り、相手意識をもって魅力が伝わる散歩コースを作成できたか振り返らせ、次時のめあてを記述させる。 ◇発表した次時のめあてを模造紙に*書いて*残すことで、次時の学習につなげる。 ●収集した情報を相手にとってより魅力的か整理し、分析している。 【思・判・表】 （振り返り）

板書計画

10／30（金）

墨田・京島大好きさん歩コースを作ろう！！

めあて みんな に み力が伝わる墨田・京島大好き さん歩コースを考えよう。

○さん歩コースを歩くあい手
外国人　お年より
家族　　修学旅行生

○さん歩コースを歩く目的
墨田・京島を大好きに
なってもらいたい。

授業の流れ
さん歩コースを作る
↓
アドバイスタイム
↓
さん歩コースを
よりよくする
↓
ふりかえり

次の時間のめあて
○コース名をもっと工夫して、
み力が伝わるようにする。
○友達が付け足してくれた み力も、
さん歩コースに入れる。
○よりよい さん歩コースになるように、しょうかいする み力を見直す。